

教職員養成・育成だより 第44号



これまでの「大学連携だより」を、第41号から「教職員養成・育成だより」として名称変更し、大学連携の情報に加え、教職員の研修等の様子についてもお伝えしています。

令和2年12月9日発行
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

教員基礎研修 集合研修型を学校で実施!

能見台南小学校 研修テーマ **教育的ニーズに対応した指導・支援**

～特別な支援を必要とする等、多様な子どもたちへの指導・支援に関すること～

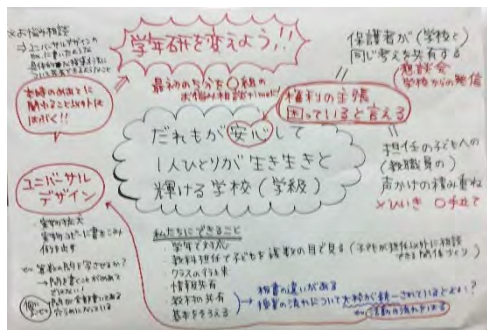
今年度開設した「教員基礎研修」は、全ての教員が、自分が学びたい内容について、状況に応じた受講の形態で学べるフレキシブルな研修です。**A集合研修型**、**B通信教育型**、**C校内研修型**、**D疑問解消型**の4種類から選択できます。

理由② 内容を選べる



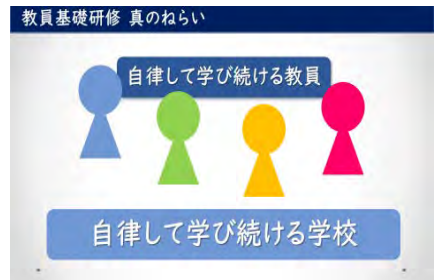
能見台南小学校の馬場副校長先生から「10月開催の第3回集合研修のテーマ『教育的ニーズに対応した指導・支援』が、校内の教員が今最も資質・能力の向上を目指したい要素なので、全教員で集合研修に参加したい。」という御相談がありました。そこで、教職員育成課から指導主事・指導教官が能見台南小学校に訪問し、教員基礎研修「A集合研修型 訪問スタイル」を実施しました。

当日は、指導主事・指導教官が、6時間目の授業における子どもたちと先生方の様子を参観した後、家庭科室で全教職員参加の研修を行いました。花咲研修室での研修と同様に、事前に各自でeラーニングを行っていたので、集合すると、指導主事の短時間のオリエンテーション後、すぐに協議をスタートでき、一人ひとりが語る時間を十分にとることができました。



グループ協議は、経験年数別5グループに分かれ、指導教官・指導主事がファシリテーター兼指導助言者として進行了。それぞれが意見、疑問、悩みを出し合い、対話の中から様々な学びがあったようです。最後は各グループの発表を行い、それぞれのステージごとに、悩みや今後にかかそうとする具体が異なっていることに気づく等、お互いのことをよく知る貴重な機会になっていました。

まとめとして、高橋校長先生から「今後も学び続ける学校でありたい」というお話がありました。このメッセージは、教員基礎研修「訪問スタイル」を通して、教職員育成課が最も伝えたいことでした。今回の研修にとどまらず、今後、学校として資質・能力の向上を目指すテーマを見つけ、教員基礎研修のシステムを活用して、学び続けていただきたいと思います。



「自ら学び続ける教員・学校」を目指して、「教員基礎研修」を御活用ください!

～能見台南小学校 研修受講アンケートより～



○事前eラーニングしておくことで、話し合いの時間が十分取れて、活発な意見交換ができました。○ファシリテーターのおかげでグループが一体となって話し合う充実した時間を過ごせました。○日頃ゆっくり語り合う機会がないので、ありがたかったです。○自分をもっと高めていきたいと思いました。○周りの先生達も同じようなことに悩んでいることがわかり、心がスツとなりました。○自分が今後やるべきことが具体的にわかり、明日からの活力につながりました。○今日話し合ったことをすぐに行う予定です。

※第4回集合研修型【12月23日(水)「児童生徒理解」～こどもとのキャッチボールはうまくいっていますか?～】は、現在申込受付中です。御参加お待ちしております!

YCAN 簡易集計から <http://ky-chosa.office.ycan/enquete/06/public/index.cgi?serial=335>

★★★アイ・カレッジ コーナー★★★

授業力講座 ～初めての模擬授業～ (11月26日、12月6日)



今回の模擬授業では、教科化された道徳の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための板書や発問について考えたり実践したりすることを中心に、これからの授業づくりや授業を観る視点をより明らかにしようとしました。一人10分という短い時間でしたが、事後の討議では忌憚のない意見を出し合うことができ、今後の授業に向けての課題をつかむことができました。特に、指導内容

や方法だけでなく、指導者の表情、声の大きさや抑揚、発言の受け止め方など、「隠れたカリキュラム」に関わることもこれからの子どもが主体となる授業づくりにかかせないことを学ぶことができました。

今後も「主体的・対話的で深い学び」をすべての教科の授業場面で実現するためのポイントを学んだり、小学校は国語や社会科、中学校は各教科の模擬授業を実践したりするなどして、授業力の基礎を身に付けていけるようにします。

